

土曜市民セミナー



キャッサバ栽培を通じて 地球の炭素循環を考える

2026
1/10 土
13:30 ~ 15:00

講
師

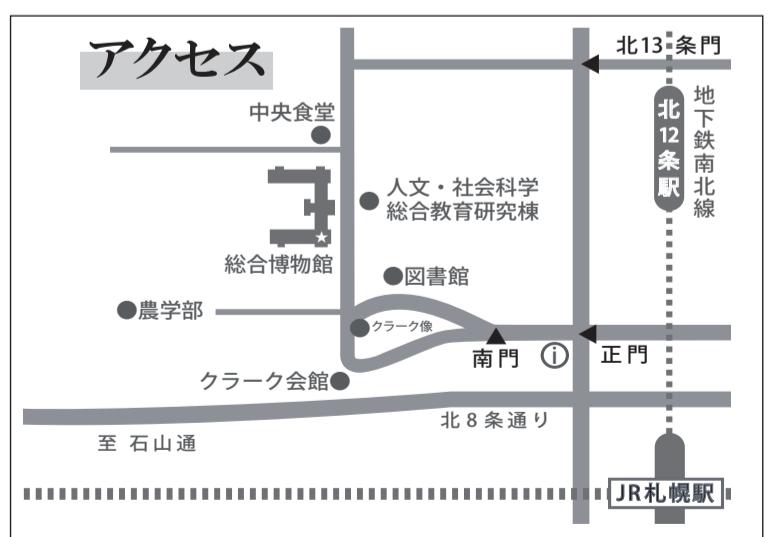
信濃 卓郎
北海道大学大学院農学研究院



入場無料 / 定員 70名 (満席時は立ち見 10名)

会 場

北海道大学総合博物館 1階
「知の交流」



主催・お問合せ

北海道大学総合博物館

TEL : 011-706-2658

HP : <http://www.museum.hokudai.ac.jp/>

南米原産のキャッサバは熱帯地域を中心に、広く栽培されている。南米、アフリカでは食用が種であるが、東南アジアでは主にデンプン用として栽培がされており、換金植物として扱われている。栽培方法はモノカルチャーであり、化学肥料と灌漑に依存した集約的な農業となっている。そのため、土壤炭素の減耗が顕著であり、長期的な作物生産の維持は困難になりつつある。日本はタイ、ベトナムから大量のキャッサバ澱粉を様々な用途で輸入しているが、同時に彼の地の土壤を利用していることと同じである。このベトナムでのキャッサバ栽培システムを見直し、環境保全型農業を実践することで土壤に再び炭素が蓄積可能な農業に取り組んでいる研究を紹介する。